

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-2-3 文化芸術の振興
---------	--------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

社会教育課長 福岡 直

電話番号

0852-22-5910

事務事業の名称	青少年文化活動推進事業	
目的	(1) 対象	児童・生徒
	(2) 意図	児童・生徒の「豊かな心」を育むとともに、地域との連携により次代の文化活動の担い手を育成する。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 文化活動の成果発表の機会を確保するため、島根県高等学校文化連盟（県高文連）が実施する発表会等を支援するとともに、高校文化活動に関する連絡調整窓口である県高文連の機能を高めるため、事務局体制の充実を支援する。 全国高等学校総合文化祭への参加を促進するため、参加経費の一部を補助する。 文化活動にインセンティブを与えるため、全国大会に出場する部活動を激励するとともに、全国規模の大会等で入賞した生徒を顕彰する。 文化庁や文化団体の各種事業を活用し、児童生徒に対して優れた文化芸術に親しむ機会を提供する。 	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 高校における生徒の文化部への参加率（県高文連加盟校）	目標値		30.0	30.0	30.0	30.0	%
		取組目標値						
	式・定義 文化部生徒数／高校生徒数（県高文連加盟校）	実績値	30.6					
		達成率	—	—	—	—	—	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	—	—	—	—	—	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	9,755	9,380
うち一般財源 (千円)	9,755	9,380

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> 全体の高校生徒数が減少傾向にある中、文化部活動への参加率は概ね30%を維持している。 【県高文連加盟校における参加率】 H25年度 5,871人／19,118人 (30.7%) H26年度 5,859人／18,952人 (30.9%) H27年度 5,625人／18,375人 (30.6%)
--

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> 文化活動への各種支援等により、文化部活動参加率は横ばい傾向にあり、少子化が進む中においても活動の維持、活性化が図られている。
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

<ul style="list-style-type: none"> 将来的にさらなる少子化が進むと、文化部活動の活動水準の維持・向上、次代の文化活動の担い手育成が懸念される。

②困っている状況が発生している「原因」

<ul style="list-style-type: none"> 少子化に伴う生徒数の減少 学校内における教員の多忙化と指導者の不足
--

③原因を解消するための「課題」

<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の文化芸術活動への意欲を喚起し、文化部活動の活性化とレベルアップにつながる取り組みを継続していく必要がある。 学校内だけではなく、地域や文化団体との連携を深めていくとともに、高校文化活動のポータル機能を担っている県高等学校文化連盟の機能を維持・支援していく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> 地域や文化団体との連携を図りながら、県高等学校文化連盟を通じた各種支援や成績上位者への顕彰などを継続して実施する。 文化庁等の各種事業を活用して、児童・生徒が多様な文化芸術に親しむ機会を提供し、豊かな情操を培うとともに文化活動への意欲・関心を高める。
--

9. 追加評価（任意記載）

<p>・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。</p> <p>・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。</p>
